



2021年1月

↑HPはこちらから

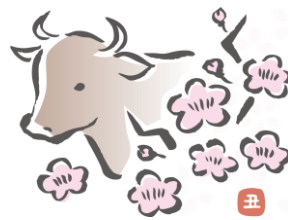


巻頭のご挨拶




新年あけましておめでとうございます。いつもランナーをご愛読いただきありがとうございます。今年も様々な情報をお届けできるよう頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年の12月中頃から急に気温が下がり、身体の準備が追いついていない方も多くいるのではないのでしょうか。これから2月にかけて、冷え込みが強まっていく予報となっておりますので、病気に負けない身体づくりをしていきましょう。この頃は毎日マスクをして生活していますが、免疫機能も高めていきたい時期なので、いつもよりビタミンを多くとるように心がけています。ビタミンに身体の免疫機能を高めるものがあることはご存知の方も多いと思いますが、ビタミンを世界で初めて発見したのは日本人だをご存知でしたか？



1911年、米ぬか中に脚気（かっけ）を予防する新規成分（ビタミンB₁）が存在することを示した鈴木梅太郎氏の論文が発表されました。鈴木氏は東京帝国大学（現在の東京大学）の農学者で、世界で初めてビタミンの存在を論文として示しましたが、数か月後に発表されたポーランドの生化学者カシミール・フंक氏による論文が注目を集めたため、フंक氏の命名「Vitamine」が先に定着する結果となりました。（現在はVitaminと記載します。）世界的な知名度こそ遅れてしまいましたが、当時死に至る病であった脚気は、鈴木氏による有効成分の発見によって次第に減っていったそうです。

ビタミンは体内において大量に必要な成分ではありませんが、不足すると様々な不調を引き起こします。体調管理に気の抜けない今の時期にこそ、積極的にとるよう心掛けていきたいですね。

千葉研究農場トマト便り 

本格的な冬が到来し、水道管も凍るほどの季節になりました。千葉研究農場ではハウスの保温性を高めるために側窓の目張りを行っています。省エネ化のための設備の点検や対策につきましては、ランナー vol.37でも紹介した、農林水産省の「施設園芸省エネルギー生産管理マニュアル（改定2版）」に記載されていますので、ぜひご確認ください。

農林水産省「施設園芸省エネルギー生産管理マニュアル（改定2版）」
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/pdf/manyaual-kaitei2.pdf>

植物の低温に対する生理反応として、トマトは培地温度がだいたい13℃以下になると根の機能が低下し、生育が抑制されるそうです。そのため、品種による差はありますが、培地を20～25℃程度に加温することで根の伸長促進や肥料の吸収促進効果を期待することができます。培地加温には温湯管やヒーター線（温床線）などの方法があります。また、養液に用いる水の温度が低いと培地温を下げてしまうので、ハウス内に原水タンクを設置するなどの配慮が必要です。



側窓目張り



原水タンク（ハウス内に設置）

前回12月号は、温室効果ガス排出量削減特集ということで、J-クレジット制度についての紹介や関連する製品についてご紹介させていただきました。今回は、温室効果ガス排出量削減に関連する国際的な取り組みについてご紹介します！

いきなりですが！ 2015年9月…、国連サミットで採択されたことといえば？

エス・ディー・ジーズ

SDGs 持続可能な開発目標



17の大きな目標とそれらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。



持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、日本でも積極的に取り組みが行われています。

日本政府は「ジャパンSDGsアワード」として、SDGs達成に貢献する優れた取り組みを行っている企業・団体などを表彰しています！

施設園芸においてSDGsに貢献するには…？

たとえば！ 「目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

どんな取り組みをすればSDGsに参加・貢献できるだろう？



まずはこんなことから始めてみませんか？

- ◆ 暖房機のメンテナンスを定期的に行い、熱効率を維持する
 - ◆ ヒートポンプを利用する
 - ◆ 温室の保温性向上のため、カーテンの隙間を減らす
 - ◆ 作物の生育適温を知り、適切な温度管理を行う
 - ◆ 送風ダクトなどを使用し、温度ムラを改善する
 - ◆ 局所加温装置を導入する
- などなど

私たち1人1人ができることをしっかり考え、1歩踏み出す姿勢が求められています！

ランナー vol.39 2021年1月発行 掲載記事の無断転載を禁じます。

発行所 株式会社 大仙 温室事業部

〒440-8521 愛知県豊橋市下地町字柳目8

[TEL]0532-54-6521 [FAX]0532-57-1751 [E-mail]mail.magazine@daisen.co.jp [登録]



※ メールマガジン配信希望の方は、右のQRコードよりご登録いただくか、上記のE-mailアドレスより空メールの送信をお願いいたします。